

パーキンソン病

パーキンソン病は主に中年期以降にはじまり、ゆっくり進行し、脳内の黒色の神経が変性し、ドパミンが減少する病気です。手足のふるえや動作が遅くなる、歩き方がおかしい、姿勢が前かがみになる、声が小さくなったなどの症状があります。

病状が進むと
三大徴候と言われる

- ふるえ（振戦）
- 手足が固くなる（筋固縮）
- 動作がゆっくりとなる（無動症）



を示すようになります。

治療にはそれぞれ適した薬が選択されますが、薬効持続時間が短縮したり、急に症状が悪化することがあり、病状に応じて薬の種類や服用量、服用回数が



変わることがあります。長期間にわたって治療が必要で、きちんと治療を受け、薬は根気よく指示通り正しく服用することが大切です。また、急に服用を中断すると発熱や筋肉痛などの症状がでることがあります。もし、薬が飲めないような状況が起きた時は、主治医に相談してください。

薬の種類

	特 徴
L-dopa製剤 ドパストン、ドパール、ドパゾール、ネオドパストン、メネシット、ECドパールなど	減少したドパミンを補うためドパミンを脳内に移行しやすいようにした飲み薬です。
ドパミン作動薬 パーロデル、ペルマックス、カバサール、ドミンなど	ドパミン神経細胞にドパミンと同じように働く薬です。
抗コリン薬 アーテン、アキネトン、パーキン、トリモール、コリンホールなど	ドパミンが減少して他の神経伝達物質とのバランスが崩れているので、そのバランスを調整し症状を緩和する薬です。特にふるえに効果があります。
その他	特 徴
シンメトレル	神経からドパミンの放出を促進します。
ドプス	他の神経伝達物質(ノルエピネフリン)を補充してすくみ足などの症状を緩和します。
エフピー	ドパミンの分解を抑制してドパミン量の減少を抑えます。L-dopa製剤と併用しその治療効果を延長します。

主な副作用

	副 作 用
L-dopa製剤	悪心・嘔吐など胃腸症状、注意力低下など精神症状や神経症状など
抗コリン薬、シンメトレル	口渇、視力障害、めまいなど

その他

便秘、起立性低血圧、眠気、動悸、幻覚、妄想、発疹などが起こることがありますが、症状に気づいたとき、ご自分の判断だけで服用を中止しないで主治医に相談しましょう。